

令和2年7月31日

先日、平日の昼間に勤務中の妻からメールが入りまして、どうも財布を忘れたらしく、昼ご飯どうしようという内容でした。ありがちな話ですが、いざそういうことが起きると困りますよね。

時代で考えると、昭和だったらどうするでしょうか。会社の同僚に現金を借りるとか、馴染みの食堂があれば1日だけツケにしてもらうとか、何か理由をつけて奢ってもらうとか、あるいは昼ご飯抜きで我慢するとかありますよね。平成だったらどうでしょう。カードの時代になってますからね、少額でもクレジットカード使えますし、何かの機会にクオカードなんか頂いてたら、カバンかロッカー、机の中（ホントはよくありませんが）とかに保管してあってコンビニ等で使えたりとかできますよね。これが令和だったらどうなるのか。令和の私はどうしたのかと言いますと、「ペイペイ」だったんです。私のペイペイから妻のペイペイにスマホで送金したんです。しかも、既にコンビニの中にいる妻に。そうすると、妻はスマホで増えたペイペイの残高を確認して、何事もなかったように、コンビニの窓口で決済して無事に昼ご飯にありつけたんですね。

もっとも、ペイペイ送金を私が一人で思いつくわけもなく、とある方からアドバイスいただいたのですが。しかし世の中はすごい変わってきましたね。昭和の私がそんな電子マネーのやり取りを見たらどんなにびっくりするでしょうか。

そうそう、当社も業界では革新的な決済方法を導入しました。通関料などの諸掛や関税などの立替につき、お客様がクレジットカードで決済できるというものです。これはまぎれもなく業界初の試みです。まあ実際問題として、ネックがいろいろあるので急激に浸透するものではないのですが、今だけを見て実行したわけではないんですね。今は当社の取扱としてはB to Bなわけなんですけど、おそらくこれから10年後20年後にはB to Cも取り扱っているんじゃないかと思うんですよね。皆さん、アマゾンや楽天で買い物したら決済は何でしますか？ そう、クレジットカードですよ。それも当たり前。物流も、EC物流が普通になってきたら、クレジットカード決済の需要は当たり前に出てきますよ。でも、そうなってから慌てて導入を試みても遅いんですね。遅すぎはしませんが。同業他社がまだやっていない間にこれの抱えるネックを密かに解消しておく。そうすると、いざという時に先行できるわけです。

史上初とか業界初とかってインパクトはありますが、その背景には「挑戦」があるわけです。でも、同じくらいの数の失敗もあるわけです。誰もやったことのないことをやろうとするのは勇気が要りますが、当社の基本方針にあるチャレンジ精神を発揮していきましょう。

以上